

# St. Luke's International University Repository

The web survey about the current trend of e-learning for graduate schools of nursing in USA.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 豊増, 佳子, 中山, 和弘 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/460">http://hdl.handle.net/10285/460</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## e-learning を実施している米国の看護系大学院の実態調査 —Web 調査によるアプローチから—

豊増 佳子<sup>1)</sup>, 中山 和弘<sup>2)</sup>

### The Web Survey about the Current Trend of e-learning for Graduate Schools of Nursing in USA

Keiko TOYOMASU, M.N<sup>1)</sup>, Kazuhiro NAKAYAMA, PhD<sup>2)</sup>

#### [Abstract]

To examine the possibility of introducing e-learning into graduate schools of nursing in Japan, a web survey was conducted first in order to explore the basic framework of e-learning.

The URL gradschools.com was used as the method for the Web survey. The URL resulted in a list of 17 institutions of higher learning that included 3 colleges and 14 universities, 98 courses. Some institutions of higher learning limited accreditation to individual courses, while other such institutions accredited the whole department.

The database of each university and college using: the name of university, URL of the homepage, course category, accreditation status, course credit, course term, cost per credit, on or off campus, clinical training, the kind of examination, main classroom and study tools, online library, support system of information technology, and computer literacy requirements.

[Key Words] e-learning, online education, distance education, graduate schools of nursing,  
[キーワード] e-learning, online 教育, 遠隔教育, 看護系大学院,  
Web survey  
Web 調査

#### 【抄 録】

看護高等教育ならびに継続教育の方策としての e-learning 導入の可能性を探り、看護大学および看護系大学院において e-learning 展開を考える際に参考にする情報収集を行うために、e-learning (online 教育, 遠隔教育) を実施している米国の看護系大学に関する実態を Web 調査によるアプローチから試みた。

Web 調査方法は、e-learning を実施している看護系大学院を検索するために gradschools.com というサイトを利用してヒットした、3つの単科大学、14の総合大学の計17大学の98のコースについて、大学別に、大学名、Web ページ、取得できる学位、認定機関、履修すべき科目名、修業年数(期限)、授業・学習形態・教材、費用、実習状況、電子図書館や情報システムのサポート体制などを、各大学のホームページ上で得られる範囲でデータベースを作成した。

1) 聖路加看護大学 講師 看護管理 St. Luke's College of Nursing Lecturer Nursing Administration

2) 聖路加看護大学 助教授 保健社会学 & 保健医療情報学 St. Luke's College of Nursing Associate Professor

Health Sociology & Health Informatics

2003年12月15日 受理

## I はじめに

近年の社会の高度情報化の中で、急激な進展を遂げつつあるマルチメディアの持つ教育的可能性から、看護・保健分野においてもこれを活用した遠隔教育の意義や必要性が指摘されるようになってきている<sup>1), 2), 3)</sup>。そこで、看護高等教育ならびに継続教育の方策としての e-learning 導入の可能性を探り、看護大学および看護系大学院において e-learning 展開を考える際に参考にする情報収集を行うことを考えた。

私共が現在行っている他の調査によると、日本における看護教育の分野での e-learning 関連の文献はきわめて少なく、現時点で通信制による看護高等教育は実現していない。しかし、アメリカ合衆国やオーストラリアなどの広い国土を持つ国では、その必要性を強く迫られていたことから、通信制看護教育に関しては比較的長い歴史がある。よって、看護教育の分野で遠隔教育を概観するために、e-learning を実施している米国の看護系大学に関する実態を Web 調査によるアプローチから試みたので、その結果を報告する。

## II 方法

### 1. 調査期間

2002年8月～2003年3月(主に8～9月)

### 2. 情報収集するコースの選定

本報告では e-learning を、インターネットや CD-ROM、テレビ会議システムなどの情報技術や情報機器を取り入れた教育研修<sup>4)</sup>のことと定義する。また、図 1<sup>5)</sup>に示すすべての学習方法や、Virtual University パーチャル・ユニバー

シテイ、Online Education オンライン教育、Distance learning 遠隔教育などの用語で使用されるすべてを e-learning に含む。

この e-learning の、アメリカの大学におけるコースを検索するために、Graduate Distance Learning を一覧できる gradschools.com の URL 「<http://www.gradschools.com/listings/distance/nursing-distance.htm>」<sup>6)</sup>の nursing に関する general listings から検索した。そこで得られた 61 コースを、大学名の頭文字で 4 名の調査協力者で配分し、各大学のホームページ(以下「HP」とする)から直接情報収集を行った。たとえば Arizona Univ.～Curtis Univ.までを A～C のコース(14 コース分)として分け、同様に D～N のコース(16 コース分)、O～W のコース(13 コース)、U のコース(18 コース分)と配分して情報収集し、著者がそのデータ収集のマネジメントと統合と分析を行った。

また、その中に含まれる RN から BSN への転換プログラムについても、継続教育と捉えて調査対象に含めた。

### 3. 選定したコースから収集する情報項目の抽出

Web 上から得られる情報が何かについて、まず項目だけ抽出し整理した。例えば大学別に、大学名、Web ページ、得られる最低限の情報項目と簡単な情報だけのデータベース表を作成し、取得できる学位別に、履修すべき科目名、修業年数(期限)、授業形態・教材、費用、実習状況などを HP でわかる範囲でまとめた。また、RN から BSN への転換プログラムがあるか、またそれと大学院との内容の区別ができれば、備考として記載するなど工夫した。この作業では、一般的な情報ははじめ、教授方法、単位の認定方法、実習にかかわること、定員なども含めて、得られる情報項目が何かを整理するために行った。

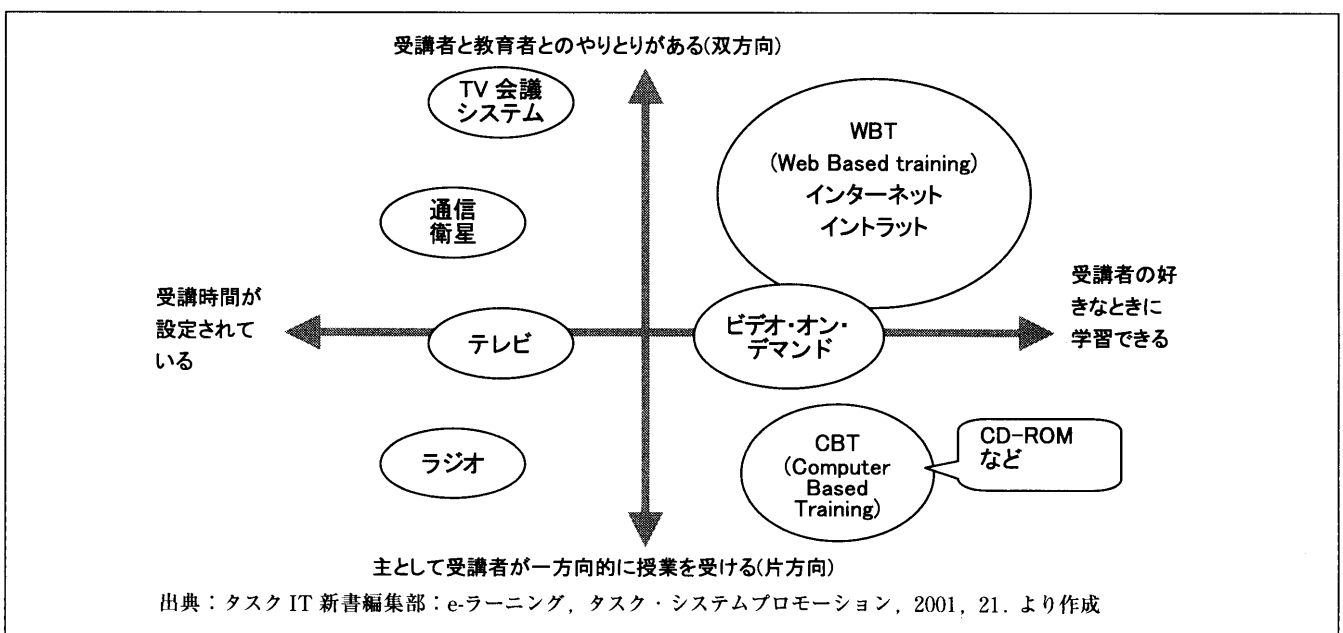


図1 e-ラーニングの整理

#### 4. 調査結果の一覧表作成とそのまとめ方、データ保存について

第1段階としての一般的な情報の抽出と概観の把握、第2段階としてその情報をもとにさらに深めて把握する過程を目指した。Webページの修正は常に行われているため、データは原則としてメディア媒体(FDなど)に保存した。各大学のOnline Learningにおける情報は膨大であり、その反面、利用登録をしている対象者にしか得られない情報もあり、特にカリキュラムや実際の講義形態・評価方法は、一般公開されていないものも多い。よって今回は61コースの概略をつかむ程度の調査項目に絞った。その結果をもとにしてe-learningによるコースを実際に立ち上げる際の参考資料となる調査項目や、e-learning受講者のuser sideからの使い勝手や意見、良いアイデアを得たりする際の基礎とするデータを探求して、さらにそれを焦点化することを目指した。

### Ⅲ 結 果

#### 1. 分析するe-learningコースの抽出と整理

当初Web上から得られた61コースは、各大学のホームページ上での詳細な情報収集をした結果、計98のコースが含まれていた。またこれらは、単科大学が3大学、総合大学が14大学の計17大学で行われているものであり、Course Categoryで整理すると、Master Degreeコース、Ph.Dコース、Post BSN Certificate、Continuing Educationの4種類に分類された。これらの内訳を示したのが、表1と2である。

修士レベルのMaster Degreeコースは計73あった。その中にClinical courseと想定できるコースとしては計32あり、全体の約44%であった。たとえば、Clinical Specialistは5コース、Clinical SpecialistまたはSchool Health Nurse Specialistを選ぶコースが1、Practitioner courseが21、MSN/MSとPractitionerを結合したコースが1、MSNレベルのAcute Care Critical Nursingが1、Midwiferyが2だった。Practitioner courseの試験対策コースと想定できるPrepare for Adult and Family Nurse Practitioner National Certificate Exam.も1あった。Clinical course以外では、MSNとのみ標記されていたのが6コース、看護管理や看護政策に関わるMBA/HCMが1、MSN/MBA/HCMが1、Nursing Administrationは6、日本語訳は不定であるが司法医学に関連するForensic Nurseは1コースだった。教育に関わるEducator Courseは6コースだった。

また、修士課程後のフォローをするMaster's Completion Programが3コース、MS Advanced Certificate Programが5コース、Post Master's Certificateは12コースあり、Ph.Dコースは9コースあった。

Continuing Educationは13コースあり、学士課程後のフォローとしてのPost BSN Certificateは1コースで、こ

表1 大学種別分類

大学種別	Number of University
単科大	3
総合大	14

表2 コース内容 Course Category による分類

Course Category	No.of Course
Master Degree	73
Clinical Specialist	5
Clinical Specialist または School Health Nurse Speciality	1
Practitioner course	21
MSN/MS と Practitioner	1
MSN with Acute Care Critical Nursing	1
Midwifery	2
Prepare for Adult and Family Nurse Practitioner National Certificate Exam.	1
MSN	6
MBA/HCM	1
MSN/MBA/HCM	1
Nursing Administration	6
Forensic Nurse	1
Educator Course	6
Masters Completion Program	3
MS Advanced Certificate Program	5
Post Master's Certificate	12
Ph.D	9
Continuing Education	13
Post BSN Certificate (Nursing Informatics)	1
Others	3

れはNursing Informaticsのコースだった。

#### 2. 認定 accreditation 方法や認定先からの分類

「State Board of Nursing (SBN)」による単独の認定を行っているのは1コースだった。この、各大学が所在する州にあるBoard(委員会)であるSBNと、全米看護連盟NLNによる「National League for Nursing Accrediting Commission (NLNAC)」によって認定しているコースが18あった。

また、この「NLNAC」のみによる認定は3コースだった。この「NLNAC」と、高等看護教育委員会「The Commission on Collegiate Nursing Education (CCNE)」による認定をしているコースが24コースあった。「CCNE」のみの認定は3コースだった。ANAによって設立された「American Nurses Credentialing Center Commission (ANCC)」による認定を行っているのは4コースだった。「(Pennsylvania州による) Certified Registered Nurse Practitioners (CRNP)」は1コースだった。「American College of Nurse-Midwives (ACNM)」による認定は1コースだった。

State Univ. of New Yorkの独自の認定方法である「New York State Nurses Association または State University of New York at Stony Brook - School of Nursing」による認定を行っているのが13コース、American Institute of Healthcare Professionalsの関係団体であって、米国教育省は不認可の任意団体であるCanyon CollegeとBreyer State Universityのみを認定しているという「Central States Consortium of Colleges and Schools (CSCCS)」の認定は4コースだった。

「認定がないか不明」は26コースで、98コースのうち72コースの約73%が何らかによって認定を行っていた。

これについて分類・整理した内訳を示したのが、表3である。

### 3. 単位数 Course Credit による分類

各コースで学ぶ総単位数から分類を試み、表4に示した。

1コースに10~20単位取得するのが6コース、21~30

の単位取得が11コース、31~40単位は20コース、41~50単位は29コース、51~60単位は11コース、61~70単位は1コースで、71単位以上はなかった。

最も単位数が多かったのは、University of Phoenix OnlineのMaster of Science in NursingとMaster of Business AdministrationとHealth Care Managementの複合コースで61単位だった。

費用分析や交渉術などのテーマに対して1~3時間で学ぶContinuing educationが13コースあり、5コースが不明だった。

### 4. コースの期間 Course Term による分類

コースの最大年数で分類を試み、表5に示した。1年以内は7コース、2年以内は2コース、3年以内は2コース、4年以内は1コース、5年以内は4コース、6年以内は9コース、7年以内は6コース、8年以内は8コースだった。Continuing educationが13コースで、期限設定がないか不明が46コースだった。

### 5. 費用 Cost (Course または Credit に対する米ドル数) による分類

コースの単位または期ごとの値段での分類を試み表6に詳細を示した。continuing educationを含む\$50以下のコースは13コースだった。continuing educationの場合、コース設定の容量がコンパクトであって時間換算のものもあり、時間単価で\$10~\$20であった。また1コース\$51~\$200は9コース、\$201~\$400は17コース、\$401~\$600

表3 認定 accreditation による分類

accreditation 分類	No. of Courses
State Board of Nursing	SBN 単独 1 コース
	SBN と NLNAC 18 コース
National League for Nursing Accrediting Commission (NLNAC)	NLNAC 単独 3 コース
	NLNAC と SBN 18 コース
	NLNAC と CCNE 24 コース
The Commission on Collegiate Nursing Education (CCNE)	CCNE 単独 3 コース
	CCNE と NLNAC 24 コース
American Nurses Credentialing Center Commission	4
Certified Registered Nurse Practitioners (CRNP).	1
American College of Nurse-Midwives	1
Continuing Education Programs are approved for Continuing Education credits by one or more of the organizations listed: New York State Nurses Association State University of New York at Stony Brook - School of Nursing	13
Central States Consortium of Colleges and Schools	4
不明	26

表4 コースの単位数 Course Credit による分類 (Total Credit)

Course Credit 分類 (Total Credit)	Number of Course
10~20	6
21~30	11
31~40	20
41~50	29
51~60	11
61~70	1
Continuing education	13
不明	5

表5 コースの期間 Course Term による分類 (Maximum Year)

Course Term 分類 (Maximum Year)	Number of Course
1年以内	7
2年以内	2
3年以内	2
4年以内	1
5年以内	4
6年以内	9
7年以内	6
8年以内	8
Continuing education	13
不明	46

は23コース、\$601~\$800は0コース、\$801~\$1,000は4コースでかなり差があった。

\$801~\$1,000の一番高いコストカテゴリに入ったのはCanyon Collegeだった。この大学では以下の表(別掲)のように料金が明確に提示されており、すべてのコース履修後の900~1,000時間の臨地実習<sup>7)</sup>が\$895という高額設定だったためである。しかしこれも時間換算すれば\$1/時間になる。

履修費用は、コースまたは単位に対する費用換算であるため、これらを一概に比較することは難しいので、Phoenix Univ. を例にとってみる。ここでのMBA/HCMコースでは卒業要件として46単位必要であり、その1単位は\$505である。単純に総単位数費用を計算すると\$23,230必要であり、\$1を110円で換算すると約255万円必要になる。なおDuquesne Univ. では、Orientation (New Students) Feeとして\$135、Library and Technology Feeとして\$50の徴収も明示され、約2万円の入学金と管理費、

表6 費用 Cost (Per Credit) による分類

Cost 分類 (Per Credit) \$	Number of Course
\$50以下 (incl. continuing education)	13
51~100	0
101~150	5
151~200	1 3 (per semester credit)
201~250	0
251~300	1 (for the course)
301~350	9
351~400	7
401~450	2
451~500	1
501~550	1
551~600	13(per graduate credit) 6(per semester credit)
601~650	0
651~700	0
701~750	0
751~800	0
801~850	0
851~900	4
901~950	0
951~1000	0
Resident Discount 50%	5
Clinical Fee \$400	5
不明	32

卒業時の認定単位 Graduate Credit には\$600も加えられる。中にはDiscount 50%やClinical Feeとして\$400追加するコースなどもあって興味深かった。料金について無料か不明のコースも32コースあった。

#### 6. 大学キャンパスでの講義の有無 On/Off Campus による分類

キャンパスでの講義の有無 On/Off Campus による分類を試み表7に示した。キャンパスにまったく出かけないOn line 学習のみのOff Campus onlyは30コース、On lineとキャンパスにも出かける混合学習は44コースで、不明

は 24 コースだった。

## 7. 実習 Clinical Training の有無による分類

実習 Clinical Training の有無による分類を試み表 8 に示した。

実習が必要なコースは 38 コース、必要性明示の情報がなかったのは 4 コースだった。また、受講者の居住地におけるプリセプターをおいての実習を有するまでの記載があったのが 17 コース、大学に近い場所での実習を要するとい

別掲 Cost Per Course

Degree	Cost
* Bachelors	\$400 each course
* Masters	\$450 each course
* Doctorate	\$450 each course
Field Practicum SW495	\$695 each course
Field Practicum SW595	\$895 each course

表 7 大学構内 Campus における講義の有無による分類

On/Off Campus 分類	Number of Course
On campus Only	0
Off Campus only	30
On/Off	44
不明	24

表 8 実習 Clinical Training の必要性による分類

Clinical Training 分類	Number of Course
Need	38
Not Need	4
Home site clinical with a preceptor	17
Clinical Trainig on near campus	3
不明	36

表 9 試験 Examination 方法による分類

Examination 分類	Number of Course
Certification Exam (not sure on/off)	6
Online Examination	26
On Campus Examination	9
Evaluated by Assignments	24
Depends on Professor of each Class	4
不明	29

う記載があったのが 3 コース、不明のコースが 36 コースであった。

Nurse Practitioner コースでは、600~900 時間の実習時間を明記しているコースも多かった。プリセプターに関しては、プリセプターの所属先・教育背景・専門領域、実習に関するコメント記載欄を含む、プリセプターに関する情報記載シートも Web 上で取得でき、実習に必要なプリセプターを見つけることも、学位をとるための重要な要素(能力)としているところもあった。

Advanced Nurse Practitioner と Family Nurse Practitioner の資格試験の準備勉強をする予備校学習のようなイメージの、Web 上での Follow コースもあった。臨床のためのコースではなく、教育と管理だけのコースもあった。

## 8. 試験 Examination の方法による分類

試験 Examination の方法による分類を試み表 9 に示した。Web 上でクイズなどを解く Online での試験が 26 コース、大学キャンパスに出向いての試験が 9 コース、不明が 29 コースだった。

課題提出による評価 (Evaluated by Assignments) は 24 コースで、Case Study, Clinical Case Presentation などのペーパーを書くもの、コースごとに A-F での評価はあるが全体を通したテストはないもの、実習評価は、合格か不可かプリセプターのフィードバックを受けながら臨床教授による最終評価を受けるもの、Online 上での教員とのやりとりやセミナー参加における記述やプレゼンテーションに対する評価などがあった。

それぞれの科目ごとに、各教授が設定して評価する (Depends on Professor of each Class) が 4 コースあった。これらは、日々の essay examination や試験画面にアクセスすると問題があらわれ、3 日以内に書き上げて提出するもの等であり、最終試験のない科目もあった。

Campus か Online テストによるものかは不明であるが、何らかの認定機関の試験を受ける必要のある Certification Examination は 6 コースあった。

## 9. 情報技術・機器を取り入れた教育内容 MainClass - room による分類

情報技術・機器を取り入れた教育内容による分類を試み表 10 に示した。Web-based が 67 コース、この Web-based にコミュニケーションツールとしての e-mail やチャット、テレカンファレンスなどを行うことについての明確な記載があったコースは 29 コースだった。ファックスなどのペーパーがメインになっているのが 1 コースあった。不明は 1 コースだった。

## 10. 学習の方法 study tools による分類

学習方法や道具によって分類したのが表 11 である。学習方法の種類は、さまざまな方法を複数選択しているコースが多いため、この項で述べるデータは複数換算した結果

である。PC 本体と Soft の利用 (Netscape, Microsoft Office, Lotus Notes, Acrobat Reader, Real Player, etc.) をしているのが 97 コース, Text ベースが 62 コース, 電話やファックスが 24 コース, E-mail は 57 コース, チャットルームは 21 コース, ビデオカンファレンスが 17 コース, サテライト講義 5 コース, テープ学習 6 コース, CD-ROM 学習が 27 コース, 不明が 1 コースだった。

### 11. 電子図書館 Online Library の有無

電子図書館 Online Library の案内があったのは 51 コースで, 情報がなまたは不明が 47 コースだった。

### 12. 情報システム上のサポート体制 System Support の有無

情報システム・リテラシーサポートなど System Support 体制の有無によって分類したのが表 13 であり, すべての 98 コースが情報システムに関するサポート体制を有していた。中には, 利用環境にあるのか段階的にチェックできるサイトも別に作っているものもあった。たとえば, PDF ファイルや Flash 画面などを貼り付けておき「この画面の絵は例のように表示されていますか?」と問いかけ, 利用者のインターネット環境が表示どおりに見ることができるような環境があれば, 「おめでとう!」と表示されるブラウザが次々に展開されるなどして, 確認作業を着実に進めさせるサイトもあった。

### 13. 各大学の Web 上の情報量や検索 Search のしやすさ

この項では, 調査者の主観的評価であるが, その結果をまとめる。今回検索したデータ間での相対的評価になるが, 情報量として多いと感じたのは 61 コースであり, やや多いのが 5 コース, 普通が 12 コース, 少ないと感じたのは 20 コースだった。

コースを理解する上での検索のしやすさでは, マニュアル化されてとても探しやすいものが 4 コース, 単純に探しやすいと感じられたのが 70 コース, 探しやすいが読みにくい部分があるのが 8 コース, やや探しにくいと感じられたのが 4 コース, 探しにくかったのは 12 コースだった。

検索した感想の詳細を述べると, 簡潔明快な内容のもの, どのような仕組みで学習していくかもわかりやすいもの, 読みやすいホームページ, 遠隔地での教育を熱心に行っている様子うかがえるもの, どのような仕組みで Web 講座を行っていくかの見本になるもの, Web 上のキャンパスツアーや授業形態, 試験, 教授についてなどすべて公開されているもの, デモ・コースを有し, カリキュラムやテストの形式, Real Player を活用したシミュレーションなどのクラスづくりの参考になるものなどもあった。

また, 費用を安価または無料で設定して, Certify を受けたい人がテスト代のみを支払って受講するという仕組みを予測させるコースもあった。また, 各コースの費用や実習や試験についてなど具体的に説明されずに各自興味を持つ

表10 情報技術・機器を取り入れた教育内容 Main Classroom による分類

Main Classroom 分類	Number of Course
All be taken Web-based instruct	67
Web-Correspondence (Anytime, Any place)	
Web-Chat	
Chat rooms and e-mail, Teleconference and Asynchronous Web-based activities	29
Paper main	1
不明	1

表11 学習方法や道具 Study Tools による分類

Study Tools 分類	Number of Course (延べ数)
PC Hard & Soft (Netscape, Microsoft Office, Lotus Notes, Acrobat Reader, Real Player, etc..)	97
Text	62
Fax, Telephone	24
E-mail	57
Chatrooms	21
Video Conference	17
Satelite Television	5
Audio Tapes	6
CD-ROM	27
不明	1

表12 電子図書館 Online Library の有無による分類

Online Library の有無	Number of Course
Online Library の案内あり	51
なし	0
不明	47

表13 情報システム・リテラシーサポート System Support 体制の有無による分類

System Support 体制の有無	Number of Course
ある	98
なし	0
不明	0



表14 調査時の Web 上の情報量に対する主観による分類

調査時の情報量	Number of Course
多い	61
やや多い	5
普通	12
少ない	20

表15 調査時の調査 Search のしやすさに対する主観による分類

Search しやすさ	Number of Course
とても探しやすい。マニュアルになっている	4
探しやすい	70
探しやすいが読みにくい部分あり	8
やや探しにくい	4
探しにくい	12

たものが問い合わせで情報を得るといった仕組みを予測させるようなものもあった。

## IV 考 察

### 1. アメリカにおける e-learning の動向と教育の質保障について

アメリカの大学数は、U.S. Department of Education, National Center for Education Statistics 2000~2001<sup>8)</sup>によると、合計4,265校であり、内訳は、公立2年制大学(Community College)は1,091校、公立4年制大学(州立大学)638校、私立2年制大学670校、私立4年制大学1,866校である。公立・私立あわせると4年生は2,504校、2年生1,761校である。松岡<sup>9)</sup>は、国立教育政策研究所のセンター長である清水康敬の、アメリカの教育省の研究機関NCES(National Center for Educational Statistics)による1999年末の米国内高等教育機関における遠隔教育の実施分析について、「4年制と2年制を合わせた全米大学5,010校のうち1,680校が1998年までになんらかの形で遠隔教育を取り入れたことになる。これはほぼ3校に1校の割合であるといえ、さらにその内訳は公立の4年制大学=約8割、公立の2年制大学=約6割という高い率が報告されており、公立が私立に大きく水をあけている」とまとめている。これは、アメリカの国土の広さゆえに同じ州立間でもかなりの距離を有する遠隔地キャンパス間の協働が広がっているためのものである。田崎<sup>10)</sup>、このようなアメリカのe-learningの現状について次のように整理・分析しており、

以下にその概要を引用する。アメリカでは、広い国土を有していることによる必需性や、社会的にキャリア形成・スキルアップの場として大学・大学院が位置づけられているなど日本とは異なる特徴があり、例えば、アメリカ有数のマンモス校である22もの分校を持つカリフォルニア州立大学(CSU: California State University <http://www.calstate.edu/>)は、キャンパスに通えない遠隔地の修学希望者に対して、いかに教育の機会を与えるかという課題に取り組み、本部キャンパスに一度も足を運ぶことなく、受講サイトでの履修でCSUの単位や学位が取得できる体制を築いた。各地域のコミュニティカレッジに受講サイトを置き、教授陣を巡回派遣する取り組みや、受講サイトとキャンパス間を結ぶ双方向のテレビ会議システムの開発や衛星通信やインターネットの導入を行い、受講サイトを約30カ所に拡大して学位プログラムを提供する遠隔教育システムを確立させている。また現在カリフォルニア州では、独自の遠隔教育プログラムの提供ではなく、受講希望者が目的に応じた講座を選択できるようにサポートする、州知事を中心とした大規模プロジェクト、カリフォルニア・バーチャル・キャンパス(CVC: California Virtual Camps <http://www.cvc.edu>)を立ち上げ、州内の公立・私立の4年制・2年制大学合わせて数百校がCVC加盟、CVCのウェブサイト上では3,000以上のオンライン・コースを提供している。吉田<sup>11)</sup>も、これについてコンピュータネットワークをはじめとする各種の技術を利用した豊富な教育内容にアカデミックな正当性を付加しようとするような試みを大学関係者ではなく、西部諸州の州知事の主導ですすめられたことが興味深いと述べている。

また単に学位授与権をもつ正規の高等教育機関であるだけでなく、学習者のキャリア開発上においては、転校や大学院進学が可能かなどは大きな選択要因になるだろう。National League for Nursing (NLN) 全米看護連盟は、アメリカ全土における看護系養成所、短大、大学などの看護系のカリキュラム認定を行っている機関であり、認定を受けていない機関では、転校や大学院進学が困難になる。NLN認定学校数は2001年秋現在<sup>12)</sup>で、大学(学士):469校(全米695校中)、大学院(修士):224校(358校中)、大学院(博士):1校(75校中)である。なお、これらの認定校のリストは、NLNAC(National League for Nursing Accrediting Commission)の<http://www.nlnac.org>から入手できる。

次に、看護系における認定システムについて概説し考察する。

### 2. 認定機関について

American Nurses Association (ANA) アメリカ看護師協会によるものは、教育、特定分野での臨床経験などの必要要件を満たし、資格認定試験に合格する必要がある。ANAなどのような大学以外のOnline Continuing Education for Nursesも60近い認定機関があり、喜多村<sup>13)</sup>も

「アメリカではプロフェッションの認める力の方が政府より強い、政府でない、NPO、NGO、ボランティアアソシエーション…たくさんある」と言っている。実際に今回の調査したコースにおいてさまざまな認定機関による認定の保障をしており、これらの1つ1つの認定機関についてもWeb上で概観したが、それら認定機関全体のシステムの全体像や力関係を把握するのは困難であった。

いくつかの認定機関に限定して整理すると、American Nurses' Credentialing Center (ANCC) は、アメリカ看護師資格認定センターで、州による不統一を解決するためにANAが設立したものである。最近では多くの州が認定資格としてANCCによるCNSまたはNP認定を受けていることを要求している。これらの認定の資格を得るためには、①アメリカ国内のRN、②修士またはそれ以上の学位、③CNSまたはNPのプログラム履修、④全国レベルの認定試験に合格する必要がある、有効期限5年、再認定のためには75~150時間の受講と5~10単位の継続教育を必要とする。

State Board of Nursing (SBN) は各州にあるもので、各大学が所在する州のBoard (委員会)であり、州看護行政部による認定である。RN (Registered Nurse) になるためには、The National Council of State Boards of Nursing (NCSBN)<sup>16)</sup> による National Council Licensure Examination for Registered Nursing: NCLEX-RN の受験資格を得て、合格後に各州のSBNによって資格を受ける。

他に、The American Association of Nurse Anesthesia (AANA) アメリカ麻酔看護師協会や National Association of Pediatric Nurse Associations / Practitioner (NAPNAP) 全国小児看護師アソシエイト・プラクティショナー協会がある。

助産師の Nurse-Midwifery Program 助産師プログラムに関しては、Certified Nurse-Midwife 大学院 (Master's Program) で2年間または3年間のコースの選択または認定学校 (Certificate program) で1年間のコースの選択をする。American College of Nurse-Midwives (ACNM) アメリカ助産師協会によって認定されている学校は、大学院39校、認定学校7校 (1998.7) である。

Commission on Collegiate Nursing Education (CCNEA <http://www.aacn.nche.edu>) 高等看護教育委員会については、野地<sup>15)</sup>による解説を以下に概説する。「全米に50以上ある教育に関する認定機関の1つである。認定母体は非政府活動であり、看護専門職家集団の代表から構成されている独立した看護専門職集団 (同業者集団) による認定機関である。その活動の特徴は、自律と同業者集団による相互支援にあり、施設と専門性の2つの様式で認定する。これは、the American Association of Colleges of Nursing (AACN) 全米高等看護教育協会によって、1996年に計画され、1998年から認定の運用が開始された。2001年には、連邦政府の日本というところの文部科学省によって、教育認定機関の水準を満たしていることが認められ、大きな前

進をした」と説明している。

e-learning では、これら様々な認定機関による認定を保障するものも多く存在し、受講者への質の保証とともに、受講の動機づけ要因にもなっていると考えられる。

### 3. コース設定や費用について

2003~2004年の進学・留学資格ガイドによると<sup>16)</sup>、アメリカの学費は単位制になっており、州立大学の場合、留学生は春・秋学期に最低12単位ずつ (1単位\$125~\$795) 取得しなくてはならない。学費は4年制州立大学で年間\$3,000~\$19,000、私立大学で\$5,000~\$26,000必要であるとされている。よって例に挙げた Phoenix Univ. の MBA/HCM コースでの1単位\$505で、全コース修了に\$23,230が必要経費であることは On campus のみの学費との大きな違いはないと考えられた。

今回の調査で得られた範囲のデータからではあるが、各コースともに卒業教育としてのコースとしての成熟を感じられた。それは、学習目標や科目概要のシラバス情報は明確であり、学習ツールもさまざまな方法を導入し、試験方法なども規定しており、実習の導入やその方法も明確に提示されるなどインストラクショナルデザインされており、Onlineの学習を支える情報システム上のサポート体制はすべてのコースに存在し、電子図書館 Online Library もすべてのコースではないが存在したからである。その上で、さまざまな認定機関による認定も保障することで、卒業の継続教育として相互交換をも可能にして、看護師のキャリア開発をサポートしていると考えできた。

### 4. 調査対象大学数について

今回の調査では、e-learningを実施している大学を検索するツールの信頼性を明らかにする方法および看護系における遠隔教育実施比率の情報も取得できなかった。そのため、e-learningの検索ツールとしてgradschools.comを活用し、単科大学3大学、総合大学14大学の計17大学の98のコースについて整理した。先の尾島<sup>17)</sup>によるデータの米国全体の看護系大学の大学院 (修士) が358校あり、松岡<sup>18)</sup>の全大学のほぼ3校に1校の割合で遠隔教育を実施する傾向にあるという報告から考えると、看護系でも100校前後が遠隔教育を有することを予測すると、今回対象とした17大学という調査対象数は少ない。特に、先にあげたカリフォルニア大学の例などはヒットしていないこともあり、看護系全体のe-learning全体の傾向を探る情報として代表とするには困難であることが予測された。e-learning自体が1990年代後半から2000年になってからの急速な発展によるものであり、アメリカには企業が経営する営利大学も多く存在する。大学も営利活動を行うための別組織を設立したり企業提携したりすることによって完全なOnlineコースとして成立・継続させている。今回は、それら広報活動の活発なコースのデータに偏っていた可能性もある。しかし、アメリカにおける学位取得やトレーニング、

継続教育などあらゆるジャンルの e-learning のデータベースやリンク集が数多く存在する中で、比較的有名である World Wide Learn <http://www.worldwidelearn.com/index.html> と、Peterson's Distance Learning <http://www.petersons.com/distancelearning/> の 2 つのサイトにおいても検索してみたが、看護系に関してのヒット数は 20~85 コース程度であった。よって今回の調査結果は、アメリカ国内における看護系大学院におけるその広がりや傾向を示す代表的で確実なデータ分析はできていない可能性を残す限界はあるが、e-learning がどのように実施されているか、その内容の概要把握のためのコース数は網羅できたと考えた。

## V おわりに

今回、調査対象者数など限界がある中であり、また、アメリカという国土が広いなかでの Online 教育の必然性、認定機関の多さなど、単純に日本において参考できないこともあった。しかし、看護系大学院における e-learning のコース設定を検討する際の、教育内容や学位・認定に関する基礎情報としての情報は得られたと考える。ただ、実際に看護系大学院として e-learning を開始する場合には、コースの質や認定の確実性を保証し、それを経営的に成り立たせるための費用効果分析も今後必要になる。つまり、e-learning を実施するための組織形態や組織構成員や全体的なコスト、実施評価方法としては教育効果や教育の質などを検討するための情報も今後必要であり、今後の調査・研究課題である。

この調査は、平成 14 年度文部省科学研究費助成金によるものである。

今回の調査員として、調査そのものの企画段階から様々なアイデアを提供し、地道で高度な作業を続けてくださった学部生の武田后世さん、内山文香さん、岡田祐美子さん、飯塚由紀子さんに心から感謝いたします。

### 引用文献・脚注

- 1) 荒井蝶子, 伊藤まゆみ, 近藤誓子, 本山仁美, 廣田佳代, 樺沢一之. 看護系大学における円滑なる教育・研究体制について—研究課題「看護教育に望まれる遠隔教育及び通信制大学院の可能性について」. 平成 11 年度日本看護系大学協議会事業活動報告書. 2000, 1-28.
- 2) 花岡正明, 中野泰志. インターネットを用いた遠隔教育. 臨床看護. 28(9), 2002, 1297-1304.
- 3) 島崎道子. e ラーニングと看護への応用. 臨床看護. 28(9), 2002, 1386-1394.
- 4) 大嶋淳俊. 図解 わかる! e ラーニング. ダイアモンド社, 2001, 16.
- 5) タスク IT 新書編集部. e-ラーニング. 東京, タスク・システムプロモーション, 2001, 21.
- 6) 脚注

当サイトによると、GradSchools.com は、大学側の申し出による、学士取得後の教育情報を Online サービスするものである。このサイトは Educational Directories Unlimited, Inc によって 1996 年の 11 月から開始しており、800 以上の後援者を有する。またこのサイトは、(<http://www.studyabroad.com>) をモデルとしている。

このサイトのメンバーは以下である。

Council of Graduate Schools, Washington, DC

NAGAP: National Association of Graduate Admissions Professionals

NAFSA: The Association of International Educators, Washington, DC

National Association of College Stores, Oberlin, OH

### 7) 脚注

Canyon College の 900~1,000 時間の臨地実習内容  
 COURSE OBJECTIVE : Upon completion of this course the student will be able to define and function in the role of professional social worker/counselor, to develop and integrate into practice professional values and ethics associated with the social work/counseling profession, develop an understanding of how one's own values and ethics influence work with culturally diverse groups, disadvantaged populations, and women, and to provide reality experiences in the social work/counseling profession.

COURSE PURPOSE : By means of selected, organized opportunities, the field practicum seeks to apply and integrate the knowledge, theories and concepts of social work/counseling practice, and provides for building on previous life and work experience as well as for the development of new areas of professional competence. This process will allow the student to bring together and to integrate for professional use: cognitive learning; professional competence, values and ethics; life experiences; and activities which will enhance skill and critical analysis of social work/counseling practice.

METHOD : The student will: Have hands on practical experience E-mail correspondence one on one with Practicum Supervisor Class room (chat room) discussions or telephone/conference calls are possible if desired.

Have face to face contact via teleconferencing (requires NetMeeting with video) Turn in written reports and papers

GRADING SCALE : At the discretion of the field supervisor and practicum supervisor.

Paper points: 5 points - grammar, punctuation and spelling 15 points - content, information and thought

## ASSIGNMENTS :

### Stage I : 50 Hours

List goals of practicum learning. Find agency and field supervisor. Complete weekly diary Have at least 2 contacts with Field Supervisor and Practicum Supervisor the 1st week and weekly thereafter Have 1 face to face contact with Practicum Supervisor

Paper : State the history, structure, purpose and results of the agency; address self-knowledge. Paper should be concise, to the point and clearly specify required information by paragraphing or labeling Turn in time sheet signed by the student and the Field Supervisor

### Stage II : 400 Hours

Continue weekly contact with Field Supervisor Have at least 1 contact every other week with Practicum Supervisor Have at least 1 face to face contact with Practicum Supervisor Paper : Demonstrate the learning process (knowledge and skill development) by describing student's role in acquiring social work / counseling skills. Paper should clearly define the skills learned and discuss the learning techniques for each skill. Paper will be turned in after 300 hours and before 400 hours.

Turn in time sheet signed by the student and the supervisor

### Stage III : 450 Hours

Continue contact with Field Supervisor and Practicum Supervisor at least 1 time every 2 weeks Have at least 1 face to face contact with Practicum Supervisor prior to the ending of the practicum

Paper: Demonstrate the application and implementation of social work/counseling skills with minimal supervision. Paper should look at the application / implementation of skills as well as potential problems and possible ethical dilemmas. The final section of the paper should address, overall, the feelings of the student and field practicum experience.

Weekly diaries, time sheets, papers, and all assignments must be turned in prior to receiving a grade.

- 8) 栄陽子留学研究所 [http://www.ryugaku.com/keitai/daigaku/nyumon\\_top.html](http://www.ryugaku.com/keitai/daigaku/nyumon_top.html) [2003-11-30]
- 9) 松岡一郎. デジタルキャンパス. 東京, 東洋経済新報社, 2001, 58.

- 10) 田崎義克 (学生番号:0709810241). e-Learning による大学教育のオープン化~大学の情報化の課題とその現状~. 杏林大学社会科学部社会科学科 2001 年度卒業研究論文. 杏林大学菅原秀幸研究室 [www.SugawaraHideyuki.com](http://www.SugawaraHideyuki.com). 2003, 12.
- 11) 吉田文. アメリカ高等教育における e ラーニング 日本への教訓. 東京, 電機大出版局, 2003, 13.
- 12) 日本看護協会 <http://www.nurse.or.jp/kokusai/overseas/studyinusa.html> [2003-11-30]
- 13) 喜多村和之. プロフェッション養成の大学に求められるもの. 自律的な認定基準作成のすすめ. *Quality Nursing*. 8(9), 2002, 7.
- 14) 脚注  
The National Council of State Boards of Nursing (NCSBN)  
Mission : The National Council of State Boards of Nursing, composed of Member Boards, provides leadership to advance regulatory excellence for public protection.  
Our Vision : The National Council of State Boards of Nursing will advance optimal health outcomes by leading in health care regulation worldwide.  
Our Purpose : The purpose of the National Council is to provide an organization through which boards of nursing act and counsel together on matters of common interest and concern affecting the public health, safety and welfare, including the development of licensing examinations in nursing. The major functions include developing the NCLEX-RNR® and NCLEX-PNR examinations, performing policy analysis and promoting uniformity in relationship to the regulation of nursing practice, disseminating data related to the licensure of nurses, conducting research pertinent to NCSBN's purpose, and serving as a forum for information exchange for members.
- 15) 野地有子. アメリカの Commission on Collegiate Nursing Education-(1) CCNE の概要と認定のスタンダード. *Quality Nursing*. 8(9), 2002, 16.
- 16) 別冊エキスパートナース ナースのための進学・留学資格ガイド 2003-2004 年. 東京, 照林社, 2003, 163.
- 17) 尾島昭次監修. アメリカ看護留学への道. 東京, 南山堂, 2001, 9-11.
- 18) 花岡正明, 中野泰志. インターネットを用いた遠隔教育. *臨床看護*. 28(9), 2002, 1297-1304.